

② すみよい環境

3 公害防止

公害関係法令の整備・強化、横浜市独自の公害対策である公害防止契約や各種要綱によって、公害を中心とする横浜の環境問題は、次第に改善してきている。しかし、未解決の分野も数多く残されている。ここでは、水質汚濁、大気汚染の状況を中心にみることにしよう。

■ 河川の汚れ横ばい

まず、市内の川や海の汚れの状況は、どうなのだろうか。

河川のBOD（生物化学的酸素要求量）など有機物による汚濁は、ほぼ横ばい状態で、大部分の測定点で環境基準を満足して

いるものの、人口密集地を流れる川では汚濁が著しい(図-1)。家庭排水が主な原因だが、下水道の普及につれて改善の方向に向かうものとみられる。

一方、海域についても、COD（化学的酸素要求量）値が横ばい状態にある。こうした状況のなかで五五年七月、CODの総

量規制が導入された。東京湾の環境基準を達成するには、周辺自治体を含め汚濁負荷量を全体的に減らす必要があるからである。

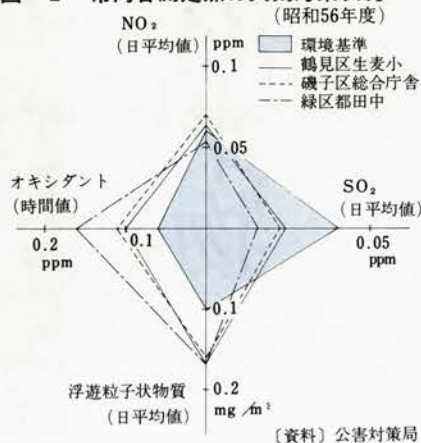
今後はこれに加え、赤潮など富栄養化問題に取り組まなければならない。このため市では、その基礎的調査を進めている。

図-1 市内各測定点の水質汚濁の変化(年平均・単位 ppm)



[資料] 公害対策局

図-2 市内各測定点の大気汚染状況

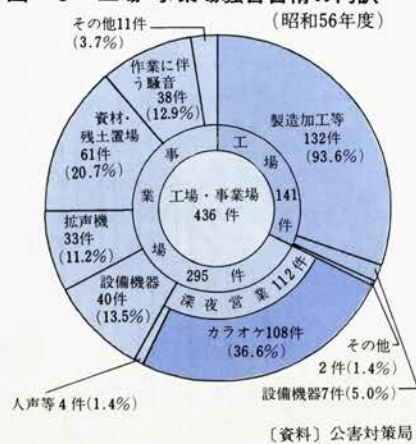


とくに窒素酸化物については、発生源対策がむずかしいこともあり、環境基準を満足しているところは少ない。市域から発生

■窒素酸化物が元凶

大気汚染はどうなのだろう。法律・県条例や協定などにより規制・指導を進めてきた結果、硫黄酸化物については大幅に改善されている。いまだでは、すべての測定点で環境基準を満足している。しかし、窒素酸化物、オキシダント、浮遊粒子状物質については一部に改善のきざしはあるものの、依然、環境基準を上回る状況が続いている(図-2)。

図-3 工場・事業場騒音苦情の内訳



とくにカラオケ騒音の苦情が多い。五六年程度では一〇八件にもなった(図-3)。このように解決しなければならぬ問題

■地盤沈下も問題に

する窒素酸化物の三〇%を占めている自動車対策が今後の最大の課題である。

一方、市民から寄せられる苦情をみると、工場関係のものは年々、減少。ここ数年、とくにカラオケ騒音の苦情が多い。五六年程度では一〇八件にもなった(図-3)。このように解決しなければならぬ問題

が山積しているわけだが、一方、市民の側では公害を含めた環境問題への関心が高まってきている。五七年八月に実施した市の調査によると、市民が望む生活環境条件では、「生活の便利さ」「交通の便利さ」よりも、「空気のさわやかさ」「静けさ」「緑の豊かさ」を優先すると答えた人の割合の方が高い。市内の河川についても、五六年三月の調査では「どぶ川」というイメージを持つ人がいる反面、八五%の人が「川を残し水遊びができるよう」望んでいる。

■対症療法からの脱却

こうした快適な生活環境を求める動きは、全国的なすう勢といつてよい。このため、これまでの対症療法的な公害対策から環境アセスメント、さらには環境を総合的に保全・創造していく「環境管理計画」の必要性が叫ばれるようになってきた。環境管理計画などへの取組みは、五六年度の環境庁の調査によれば、二八の自治体にとばるといふ。

こうした状況のなかで、市でもこの計画の策定作業を進めている。